

妊婦に対してHIV検査を実施する場合には、HIVスクリーニング検査では、一定の割合で疑陽性が生じうることをふまえ、確認検査の結果が出ていない段階での説明方法について、十分工夫するとともに、検査前及び検査後のカウンセリングを十分に行うこととプライバシーの保護に十分配慮するよう周知徹底願いたい。

厚生労働省より全国自治体主管、日本産婦人科学会へ平成19年6月に送付された通達文の抜粋

エイズ治療における全国の拠点となる病院(エイズ治療ブロック拠点病院)

ブロックエリア	病院名	担当部署	連絡先
全 国	国立国際医療センター	エイズ治療・研究開発センター	03-3202-7181
北 海 道	北海道大学病院	HIV相談室	011-706-7025
東 北	国立病院機構仙台医療センター	エイズ専門外来	022-293-1111
関東甲信越	新潟大学医歯学総合病院	第二内科	025-227-2726
東 海	国立病院機構名古屋医療センター	臨床研究センター	052-951-1111
北 陸	石川県立中央病院	血液免疫内科	076-237-8211
近 畿	国立病院機構大阪医療センター	免疫感染症科	06-6942-1331
中・四 国	広島大学病院	エイズ医療対策室	082-257-5581
九 州	国立病院機構九州医療センター	感染症対策室	092-852-0700

参考資料

HIV／エイズの基礎的な情報を掲載	HIV／エイズの基礎知識 (エイズ予防財団発行；無料で入手可能；連絡先は最後に記載)
母子感染予防の情報を掲載	HIV母子感染予防対策マニュアル(2008年3月) (ダウンロード可 http://api-net.jfap.or.jp)
女性HIV陽性者を対象とした治療や妊娠・出産などの情報を記載	女性のためのQ&Aあなたの赤ちゃんのためにできること (ダウンロード可 http://api-net.jfap.or.jp)

電話相談の紹介

HIVについての一般的な予防・ケアについての相談	エイズ予防財団(匿名;無料) 平日 10:00~13:00/14:00~17:00 ☎0120-177-812 (注)その他、各保健所でもエイズ担当部署で相談に応じています。
外国語によるHIVについての情報を含む一般相談	AMDA国際医療情報センター東京 (対応可能な言語) ☎03-5285-8088 英語・中国語・タイ語・スペイン語・韓国語・ポルトガル語・フィリピン語 (対応言語は曜日によって異なります。専門相談はタイ語のみ)

編集・発行：平成20年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策事業「周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究」班
分担研究「妊婦のHIV検査実施率の全国調査と検査周辺の診療体制の整備に関する研究」班(分担研究者:和田裕一)

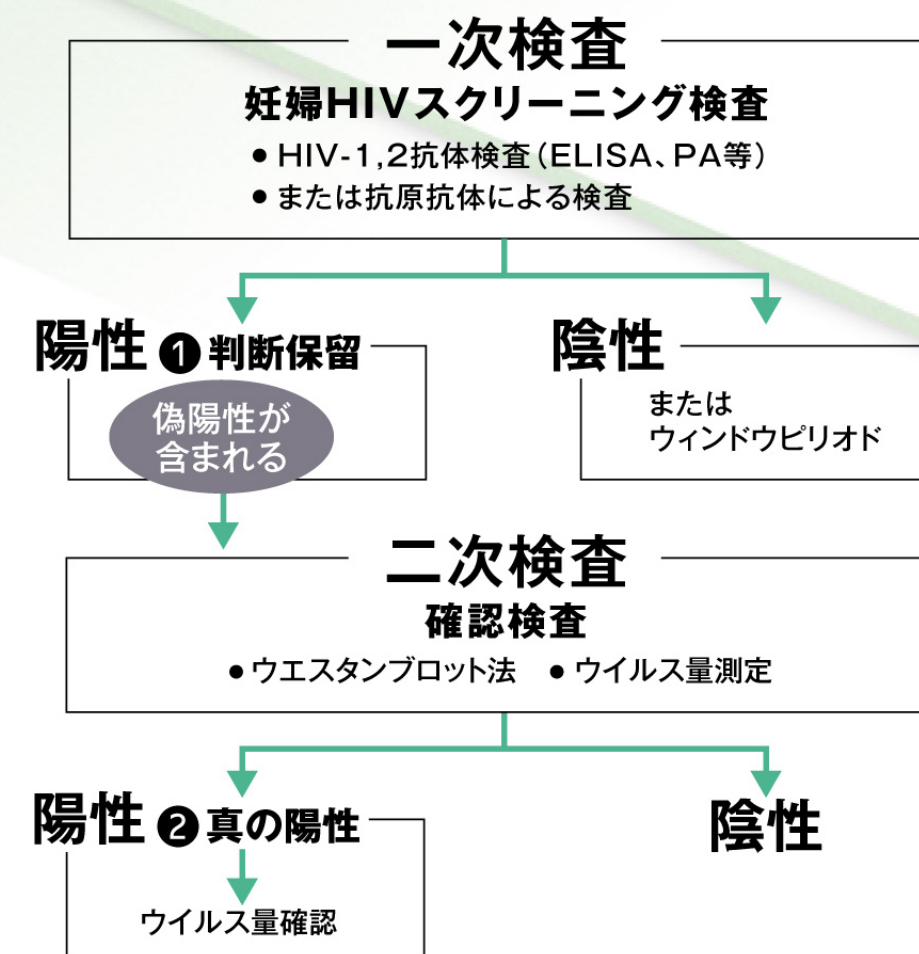
問い合わせ先：エイズ予防財団 研修・研究課 矢永由里子 ☎03-5259-1811

(スクリーニング検査) 妊婦HIV一次検査 実施マニュアル

～妊婦検査に関わる医療従事者の方々へ～

妊婦HIV検査は、妊婦における感染の早期発見や、胎児のHIV感染を予防する上で重要ですが、検査実施時に一次検査のみでHIV感染と診断・告知を行ったことで問題となるケースが報告されています。

本マニュアルは、医療従事者が、一次検査で陽性反応が出た妊産婦を、通常業務と平行しながら、スムーズに治療の専門機関である拠点病院に紹介するための手順をステップごとに説明したものです。



Step 1

検査準備

検査の把握と紹介先の準備を行います

一次検査での陽性判明に備えての準備は、日常診療の混乱を避けるためにも非常に重要です

- 1 スクリーニング検査の特性と、スクリーニング検査から診断確定までの流れを把握します。

重要メモ

一次検査が「陽性」でも、多くの妊婦は二次検査の最終確認で陰性となる可能性がきわめて高い

- 2 二次検査の実施を自施設で行うか、専門病院に紹介するかを決めておきます。
- 3 専門病院を紹介する場合は、紹介先の医療機関情報を入手し、紹介手順を整えます。

検査の特性について

一次検査(スクリーニング検査)では、HIV感染を確定できません。一次検査「陽性」の場合は、必ず二次検査(確認検査)による診断が必要となります。

*検査での高い「偽陽性率」: 現在のところ、一次検査で陽性が20名出た場合、真の陽性(二次検査で陽性)はその内1名程度という報告があります。
(エイズ学会 2004年 山田・塚原ら)

専門病院の紹介について

①裏面に拠点となる病院のリストを掲載しています。近くの専門病院を調べたい場合、まずブロック拠点病院の担当医(内科医または産婦人科医)へ連絡をすることも一方法です。

②担当医と紹介方法について事前に話し合っておくことはスムーズな紹介に繋がります。

事前準備の必要性について

HIV感染の広がりによっては、今後一次検査での陽性判明率が高くなる可能性があり、検査前の準備の重要性が増すことが予測されます。

Step 2

検査時の説明

事前に検査を正しく説明して、検査を実施します

検査前に適切な説明をして、妊婦が理解することで、結果時の説明が円滑になります

<説明の流れ(例)>

- 1 「妊婦検査にはエイズの原因となるHIVの抗体検査が含まれています。」
- 2 「結果が陰性と出たら、あなたは(過去3ヶ月前までは)HIVに感染していないことになります。」
- 3 「陽性と出ても、この結果は確定(最終結果)ではありません。詳しい検査(二次検査)を受ける必要があります。」

検査前の説明について

●検査前に、左ページの言葉を使って説明を行っておくと、一次検査で+ (プラス)となった妊産婦の告知がスムーズとなります。(検査の説明は、30秒~1分程度と想定しています。)

●HIV検査が他検査に含まれている場合でも、検査前に簡単な説明を加えることは、医療者・妊産婦双方にとって結果通知時の落ち着いた対応に繋がります。

*参考資料:妊婦用パンフレット「あなた自身の健康と健やかな誕生のために」は、検査手順の説明が付いているので、検査説明時にこの資料を手渡せば説明補足にもなります。

ダウンロード可 <http://api-net.jfap.or.jp>

Step 3

結果説明

「陽性」結果を正しく説明し、必要に応じて紹介を確実にを行います

結果を正しく説明することで、妊婦の動揺を最小限に押さえることができます

<説明の流れ(例)>

- 1 「あくまで一次検査の結果で、HIVに感染していると決まったわけではありません。詳細な検査(二次検査)で確認する必要があります。」
- 2 「今回が陽性でも、多くの妊婦が二次検査で陰性、つまり感染していなかったことが報告されています。」
- 3 「二次検査では、同じように血液を少量取って検査を行い、1~2週間後に最終結果が出ます。」
- 4 「もし陽性が確定しても、専門的治療により妊娠を継続し出産が可能、胎児の感染も防げます。」

結果返しについて

●プライバシーに配慮と、不必要な不安を与えないよう留意することが重要です。

●二次検査の実施をどこで行うかについて事前に決め、その決定に沿って準備を行います。

●「最終的に陽性が判明した場合」について、陽性時でも子供に感染させずに出産できること、治療法の改善で日々の生活や仕事も送れるようになってきていることを伝えます。

職員間での業務分担について: 紹介状準備の際に

●紹介状を作成する間に、助産師・看護師が「拠点病院への受診の手配」「先方への外来予約」「妊産婦への精神的フォロー(感染が確定した訳ではないという説明など)」を行うなど、役割分担をすることで業務量が分散され、診療負担も軽減されます。

*参考資料:妊婦用パンフレット「妊婦HIVスクリーニング検査で結果が陽性だった方へ」

ダウンロード可 <http://api-net.jfap.or.jp>